

平成15年 5月12日
原子力安全対策課
(15-13)
<15時30分記者発表>

新型転換炉ふげん発電所の燃料移送装置外隔離弁の動作不良について

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん(新型転換炉；定格電気出力16.5万kW)は、平成15年3月29日に運転を終了した。その後、4月7日より原子炉内にある燃料集合体(224体)を取り出し、使用済貯蔵プールに移送する作業を行っている。原子炉から取り出された燃料は、格納容器内にある燃料交換プールに一旦仮置きされ、そこから筒状の移送装置(トランスファースhoot)を通り、格納容器外にある燃料貯蔵プール(燃料受渡しプールを経由)に運ばれる。

4月19日、37体目の燃料移送作業完了後、トランスファースhootの燃料受渡しプール側外隔離弁を閉操作した際、過荷重の警報が発生し、インターロックにより当該弁の動作が停止した。

このため、プールの水抜きを行った後、当該弁の駆動装置や駆動軸および弁本体等の点検を行った結果、駆動軸の玉軸受(全4箇所)のうち1箇所の玉軸受が損傷していることを確認した。また、駆動軸や弁本体等には異常は認められないことから、玉軸受の損傷により当該弁の動作が停止したと特定した。

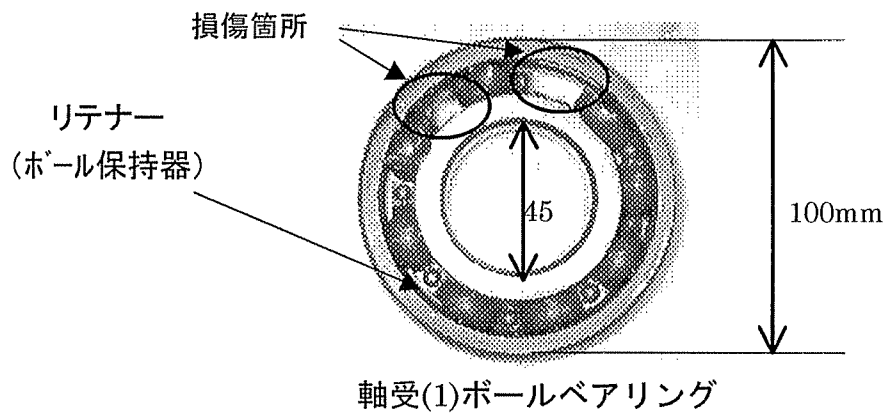
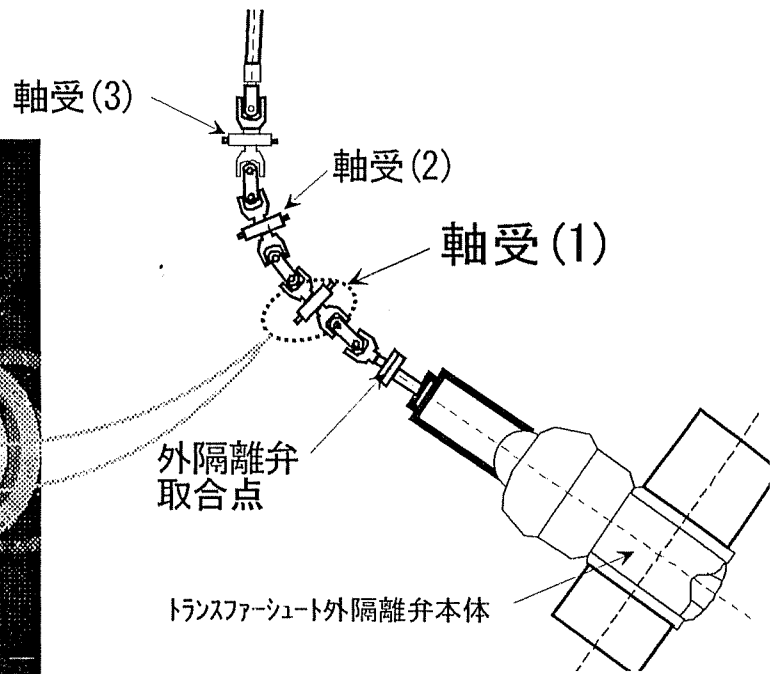
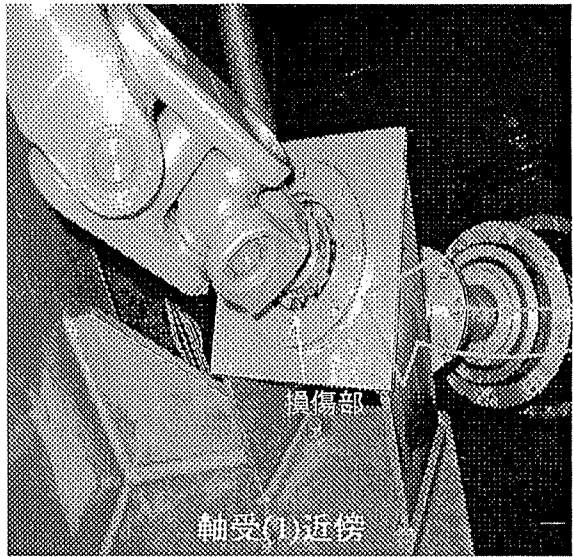
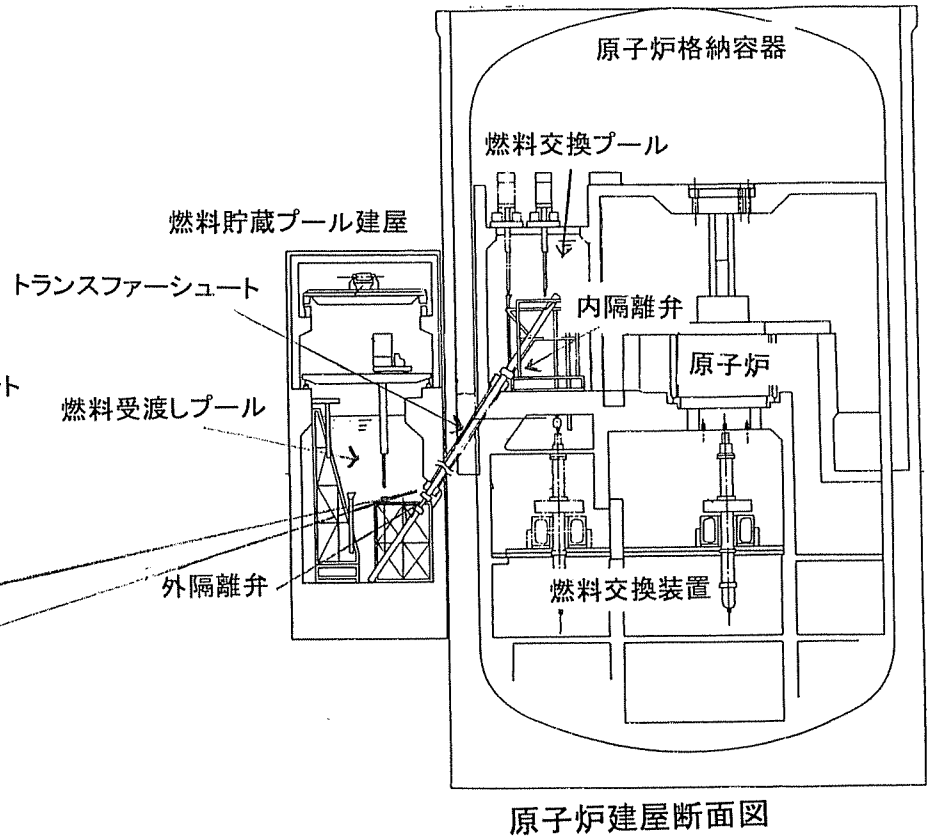
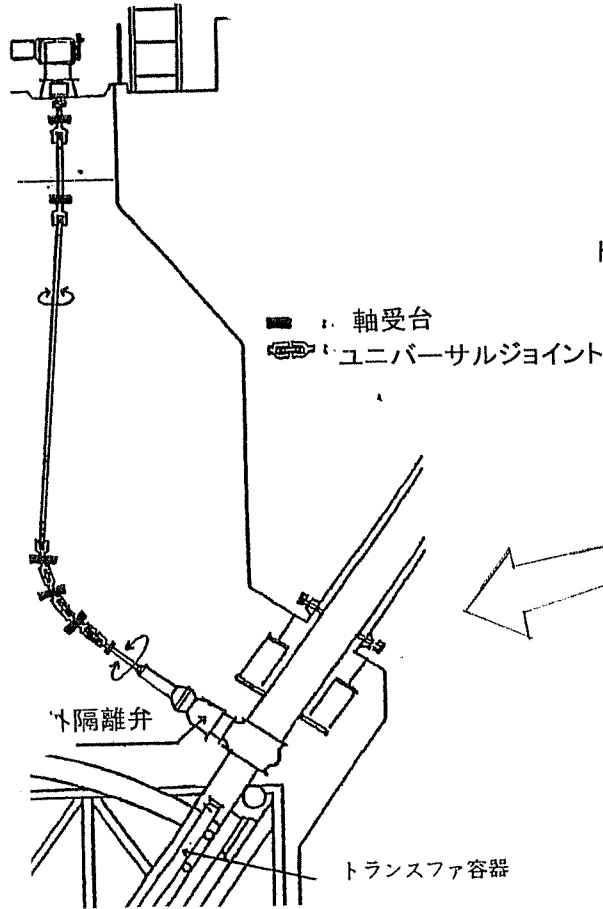
対策として、損傷した玉軸受を含めた全ての玉軸受(4箇所)を新しいものに取り替える。

今後、プールの水張りや燃料移送装置の作動試験を行った後、5月下旬頃より燃料移送作業を再開する予定である。

この事象による環境への放射能の影響はない。

問い合わせ先(担当：小西) 内線2354・直通0776(20)0314
--

外隔離弁駆動装置



トランスファースhoot外隔離弁軸受損傷状況図